

第2回協働推進委員会記録

日時	令和2年11月26日(木) 18:30~20:50
会場	市役所新館1階会議室6
出席者	委員：青山孝司、小池田忠、成田正、三矢勝司、安井昌代、横山孝三(以上6名) 豊明市：市民協働課長、協働推進担当係長、協働推進係職員(1名)

議 事

1 前回のふりかえり

○事務局より会議記録に基づき説明。

2 報告事項

(1) 市民交流センターの業務委託について

○事務局より資料1に基づき説明。

○安井委員より「創 Seeds」について説明。

<質疑応答>

・委託費はいくらを想定しているか。

→今年度の人件費や講座費を合計した額と同額を予定している。(事務局)

→法人として、安定して運営可能か。

→大部分は人件費になってしまうが、今まで個々で受けていた委託をまとめて受けることができ、やりくりが可能になる。

・事業をすることで法人にお金は入るか。

→委託だけではなく、自主事業も展開するので、お金の動きはある。

・オモイデサイセイプロジェクトに予算はついているのか。

→予算は予定しているが、企業の支援や資材の調達を狙うことも団体から聞いている(事務局)

→民間の強みを活かして、援助やクラウドファンด์などの市民に開かれたものを目指して、労力やお金など賛助者を増やす動きができると良い。

(2) 協働ラベリング調査を基にしたヒアリングについて

○事務局より資料2に基づき説明。

<質疑応答>

・ヒアリングを通して各課の協働の多様な手法を知り、タイプ別に分けて紹介することで、今までの0から5段階の評価よりは見やすくなると思う。

・大前提としては行政の事業の可視化をするために協働ラベリングが始まった。

・協働レベルが5だと市民任せと感じさせてしまう。(事務局)

→多世代交流館(仮称)が例になるが、全て任せるのではなく、ノウハウの共有やフォ

ローができるようにするべき。

- ・協働による効果項目の点数に目標はあるのか。
→合計点で出すのはわかりやすい。ただし誤解も招きやすい。
→協働レベルの向上が期待できる事業かどうかは、現時点の効果項目ごとの点数を入れて、事業後の点数と比較するのも良いのではないかと。現時点でどこまでできているかを知ることで、協働の可能性を探り、ギャップの可視化につながるのではないかと。
- ・各課の事業において、関わる団体が似通っている場合はその事業をまとめることはできないか。
→2つの課でそれぞれ行っていた協議会が1つに統一されたこともあり、まとめていく動きが出始めている。(事務局)

3 協議事項

(1) 第2次協働推進計画の進捗管理について

○進捗状況の管理について事務局より資料3に基づき説明。

■24事業を順番に確認していく。(NO.13から開始)

◇NO.13「地域一括交付金事業」

◇NO.14「コミュニティ提案型まちづくり事業交付金事業」

◇NO.15「区長連合会交付金事業」

- ・不平不満が出ているのか。
→主には面積割で出ている。(事務局)
→決着の見通しはあるのか。
→今後は、面積割の上限を決めるなどの提案を事務局が出して、各地区から意見を聞くことになる。(事務局)
- ・事業をたくさんやっているところに出すのが良いのではないかと。
- ・地域一括交付金は領収書の提出はあるのか。
→決算書のみ提出。(事務局)
- ・区長連合会によって発展した点などの成果を表してもらいたい。

◇NO.16「市民提案型まちづくり事業交付金事業」

◇NO.17「市民提案型まちづくり事業交付金(ビギナーコース・ヤングコース)事業」

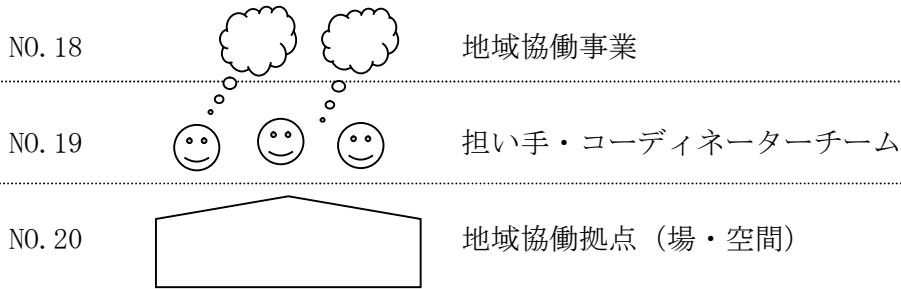
- ・子どもの見守り隊で助成を受けたことがあるが、今でも継続して活動している。事業によっては継続が難しいものがあり、交付金を受けるにあたっては物品の購入などの方が継続しやすいのではないかと。
- ・持続可能な組織の支援として創Seedsを今後活かしていくことができるか。
→創Seedsとしては、サポートを継続してやっていけるのではないかと。
→交付金後の資金調達や仲間を増やすノウハウを団体に与えていけると良い。
- ・課題に挙がっている交付金後の調査は5年10年の節目で後追い調査をすれば良いのではないかと。

◇NO. 18 「地域協働事業」

◇NO. 19 「地域協働コーディネーター人材発掘事業」

- ・創 Seeds としては特にコーディネートに力を入れたい。NPO 法人の登記後はマッチング事業もやる予定。
- ・成果として地域コーディネーター（拠点検討委員会や運営委員会）が育ったが挙がっても良いのではないか。
- ・NO. 18 と NO. 19 の事業名をひっくり返したほうが良いのではないか。

■NO. 18～20 のイメージ図



- ・事業名を変えることは可能か。
→見直しなので可能である。
- ・NO. 19 でコーディネーターの発掘と担い手（創 Seeds）を育てることは一元的ではないかもしれない。
- ・NO. 18 の前に中間支援機能の拡充を入れても良いのではないか。

◇NO. 20 「地域協働拠点の検討と設置（拠点検討委員会の立ち上げ）事業」

◇NO. 21 「地区交流拠点活性化事業」

- ・市民交流センターという拠点ができたことで、事業としては一定のレベルを完了したと言えるのではないか。多世代交流館（仮称）に移ることもあるので、次のステップに差し替えても良いのではないか。

◇NO. 22 「協働推進職員設置事業」

◇NO. 23 「短期派遣研修事業」

◇NO. 24 「各部署での協働推進事業」

- ・NO. 22 と NO. 24 を分ける必要はあるのか。
→NO. 24 の事業の中に NO. 22 の事業が包含されている。
- ・NO. 23 の課題は事業効果の把握を行ってくださいとしか言えない。
→次の異動で今の業務とは関係のない部署に行ってしまう場合もあり、事業効果を把握できないこともある。（事務局）
→派遣後に関係のない部署に行くのは無駄である。人事をする人にも考えてもらいたい。

○平成 27 年度実施「豊明市地域活動および市民活動に関する意識調査」確認について事務局より資料 4 に基づき説明。

- ・以前に市民協働課からアンケートの回答を頼まれたことがある。アンケートの量がすごく多い。無作為ならば 5 問から 10 問の方が良いのではないか。

- ・何を目的にアンケートをするか。
→計画に載っているアンケートと比較して見直しの指標になる。計画に入っているものだけを選んで量を減らすことも手である。(事務局)
- ・協働推進委員会としての意見は、アンケートはやってもらいたい、文量とネット対応は要検討。

4 その他

- ・委員の任期が満了になるため、資料5に基づき再任確認、推薦依頼を送る。(事務局)
- ・次回の会議は2月開催を予定して後日、日程調整を行う。